15	花柳流舞踊	花柳楽瞳	大久保雅司	下山手通六丁目五八	㉞一〇五七
16	愛犬	趣味の愛犬友の会本部	奥野平吉	花隈町九四	㉞一四四八
17			大塚こつる	〃 一七一	㉞〇三六五
18	旅館	お市	大橋久江	〃 一六七ノ二	㉞六九四一
19	ステンレス加工	㈱大平製作所	大平祐三	下山手通六丁目四五	㉞二五一〇六二五一
20	美容	花隈美粧院	金地修嗣	花隈町九四ノ四	㉞〇二〇八
21	旅館	多聞	鎌田小夜子	〃 一一八	㉞六二三七
22	食堂	勤労会館食堂	鎌田重吉	〃 九〇	㉞三一六五
23	料亭	富士の家	鎌田リョウ	下山手通六丁目六五ノ一一	㉞二八三〇五五〇四
24	京銘菓	亀野	亀野広重	花隈町一一四ノ二	㉟〇一〇五
25	紅茶卸	㈱川上商店	川上恭吾	北長狭通六丁目二七ノ二	㉞〇二九五〇三八〇
26	日本電々公社寮	扇港荘	河野政次	花隈町一〇〇	㉞〇〇八〇
27	諸印刷	共栄印刷(有)	岸本虎雄	〃 一六六	㉞〇三一六二〇八九
28	宗教法人	いずみ幼稚園	児玉浩次郎	下山手通六丁目五六	㉞二五九八
29	電気器具	小林電気店	小林健佐	花隈町一〇六	㉞六八一四
30	文房具	小林文具店	小林通男	〃 一〇六	㉟一四二〇三九〇七
31	呉服	冨太屋	坂本清重	〃 七七	㉞四八一九

番号	営業品目	屋号	氏名	住所	電話
32	外科医	桜井外科医院	桜井雅四郎	花隈町八〇ノ二	㉞五五〇七
33	電気設備工事設計施工	（株）佐々木電気商会	佐々木修	〃九	㉞二〇一一
34	建築設計	美研設計	佐藤貞夫	北長狭通六ノ一五ノ十二花隈会館	㉟〇七八七
35	船陸用通信機	元町電機（株）	沢井修一	花隈町一七一	㉞代三七〇一
36	ガソリンスタンド	花隈給油所	沢田商行	〃一七一	㉞三九三三
37	看板生地製作		鴫田春巳	〃四八	㉞八七八〇
38	歯科医	島谷歯科医院	島谷精一	〃一七一	㉞一〇二九
39	花隈芸妓協同組合長	歌栄	清水小富	〃一六六	㉞〇七五九
40	健康保険事業	川重保健会館	下堂園辰雄	下山手通六丁目六五	㉞五一二一
41	料亭	上伊	素川得二郎	花隈町二〇ノ二	㉞一六六四五五五五
42		本高砂屋	杉田政一	〃一〇四ノ一	㉞三四三九
43		吟水	杉原すぎ	北長狭通六丁目一六ノ一	㉞〇四九七
44	レコード	日本ビクター（株）神戸レコード営業所	須田四郎	下山手通六丁目六二	㉞（代）七〇〇一
45	芸妓	勝司	高尾みつえ	花隈町五二	㉞七五七九
46	化粧品製造	竹中化学（株）	竹中八三郎	〃六七	㉞六一二五
47	軽食	つるの家	田中喜代次	〃一一八	㉞八四三〇

48	料亭	千鳥屋	田中まさ	〃 八八	㉞三〇九四
49	弁護士	種子島法律事務所	種子島幸雄	北長狭通六丁目一五ノ九	㉞〇六九六
50	マンション	マンション花隈	辻しづ江	花隈町五〇ノ一	㉞〇九六九 五四一二
51	耳鼻咽喉科医	恒松医院	恒松欽平	〃 一六一	㉞二六七八
52	酒類	徳島商店	徳島得夫	〃 一一八	㉞八九〇四
53	凍氷、薪炭	徳島商店	徳島光雄	〃 一一八	㉞八八〇四
54	理容	花隈理容館	友兼京蔵	〃 一一七	㉞二五九三
55	呉服	とよざわ	豊沢政一	〃 一六六	㉞五四九八
56	浴場	花隈浴場	中川善文	〃 一一七	㉞八一二六
57	料亭	いさみ	中谷まさえ	〃 五ノ一	㉞五七九五 一一六二
58			中村義造	〃 一二八	㉞六八九四
59	大阪郵政省寮	神戸ボートヴィラ	永井くに	〃 八七	㉞〇九五五
60	クリーニング	亀屋ランドリー	西川常夫	北長狭通六丁目二七	㉞五〇三八
61		みつわ会	西谷美代子	花隈町八五ノ三	㉞六三三一
62	住宅建設	日本電建(株) 神戸支社	同上	下山手通六丁目一五ノ一二	㉞四五二一 四五二二
63	船舶用品	長谷商会	長谷晴司	花隈町五八	㉞三三五六 ㉟〇五七一
64	料亭	服部	服部ひさ	〃 一一八	㉞二〇七六

番号	営業品目	屋号	氏名	住所	電話
65	仕出し、すし	花隈 成駒家本店	浜野吉男	花隈町九二	㉞一七九七 三三〇二
66	小児科医	原医院	原俊一	〃 九三	㉞五九七四
67	喫茶	みどり	原徳	〃 一七一	㉞一九〇一 九六三〇
68	麻雀	花隈クラブ	日向聡夫	北長狭通六丁目一五ノ一二	㉟二三九七
69	カーペット	カメイカーペット神戸営業所	東村浩	〃 六五ノ一	㉞三四三四
70	工業用プレス・アイロン・ボイラー	(株)神戸電器工業所	平井コハル	花隈町一六九	㉞五四四三 五四五三
71	会社員		福尾義一	〃 九〇ノ五	㉟一一三九
72	諸食料品	福島屋商店	福島薫	〃 一一四ノ一	㉞六三九一
73	席貸	豊福	福永ちよ	〃 九五	㉞二八六八
74	料亭	魚善	藤本啓蔵	〃 六二	㉞三四二五 三七二一
75	アパート	藤本荘	藤本初子	〃 一四〇	㉞三四九八
76	廃品回収卸	福田商店	福田次郎	北長狭通六丁目二五ノ三	㉞三一三八
77	酒、ビール	(株)芳地商店	芳地音次	花隈町六四	㉞三二〇二
78	麺類	まつば	堀太三郎	〃 九八ノ一	㉞四七七〇
79	宗教法人	厳島神社	前川肇	〃 七	㉞四五六六
80	料亭	まえ田	前田八重子	花隈町一二ノ一	㉞五九一〇

81		十四春	前田ふじ子	下山手通六丁目六五	㉞三八〇六
82	ハイヤー	第一交通（株）	増永光男	花隈町五八ノ五	㉞二六四六
83	会社員		松岡従陽	〃 一二一	
84		東月	松谷好純	下山手通六丁目六〇	㉞二八五四
85	製麺	松本製麺所	松本辰夫	花隈町九八	㉞三〇七九
86			松村久一	〃 一四〇	
87	葬儀社	（株）公詢社	三葉実	下山手通八丁目一	㉞〇〇四一四〇八一四
88	質	淡路屋質店	南平	花隈町一二五ノ二	㉞二九七七
89	呉服	三輪	三輪潤次郎	〃 一二九	㉞四六六四
90	くすり・化粧品	厚生薬局	向井三郎	〃 一一一ノ三	㉞二六三五
91	神戸地所	花隈会館	村上茂	北長狭通六丁目一五ノ一二	㉞八〇六四
92	歯科医	村井歯科医院	村井俊郎	花隈町一〇九	㉞二九六三
93	喫茶	いずみ	村田芳子	〃 一一八	㉞三八〇六
94			森川史男	〃 一三二	㉞一八二四
95	料亭	森本	森本ひさえ	〃 一三一ノ一	㉞八〇一七
96	貸ビル モーターブール	メディカル興産（株）	安田寛之	下山手通六丁目四八	㉞三三四四
97	料亭	わかくさ	山田秀子	〃 六五ノ一〇	㉞〇四八七五三三〇

番号	営業品目	屋号	氏名	住所	電話
98	建築	山口工務店	山口理市	花隈町一四七	㉞八〇八二
99	中華西洋料理	四宮軒	山本英雄	下山手通六丁目六五ノ一九	㉞一三四〇 八二〇九
100	書籍	花隈書房	結崎昭三	花隈町一六四	㉞三四四五
101	料亭	青葉	湯木稔	〃 八六ノ五	㉞一二七一
102	宿泊、貸室 貸ガレージ	兵庫県遺族会館	岩谷源治	〃 一一六	㉞二九五二 ㉟〇三四八
103	食料品	花隈屋	揚福永	〃 一三二	㉟二八一八
104	会社員		吉川一雄	〃 一三六	㉞八六六七
105	襖・表具	吉川表具店	吉川昌弘	〃 一〇九ノ一	㉞三六七八
106	料亭	とり源	吉田千枝子	〃 一二四	㉞五八二九 五八四八
107	席貸	よしの	吉野まさえ	北長狭通六丁目一六ノ一	㉞三一八四

花隈芸妓名簿

（昭和45年、10月現在）

花隈検番芸妓協同組合提供

歌栄	歌勇	歌代	歌美	歌梅	歌しづ
歌喜美	歌津竜	歌加津	若奴	若司	若弘
若てる	鈴丸	鈴女	鈴佳	鈴乃	菊若
菊友	起久英	音栄	長駒	小久	福子
貞子	政寿	政三	政香	政千代	豆千代
花千代	芳栄	郷栄	千代栄	千代乃	孝千代
勝五郎	勝司	梅六	一龍	いち菊	二三菊
福蝶	福若	人巳	八重作	花奴	市若
菊野	百若				

花隈検番事務所

花隈町一五一ノ一番地

電話（34）四〇〇三四四四番

花隈のお店
プロフィル

現代の花隈、近代化する花隈の益々の環況整備と発展のため町内に在って御活躍されているお店を御紹介申し上げる頁であります。本文中にある様に大げさな言い方ではありませんが、ゆりかごから墓場までの私達が日常かかせないものがすべて揃っているという事は他の町では見られないものと思っております。

尚掲載写真のお店はいずれも新興会々員であります。又複数電話のある方も代表として一本を記載致しております。

料亭　阿らい　㉞二五四五

料亭　上い　㉞五五五五

料亭　青葉　㉞一二七一

料亭　千鳥屋　㉞三〇九四

料亭　いさみ　㉞一一六二

料亭　長駒　㉞七二一八

料亭　魚善　㉞三四二五

料亭　とり源　㉞五八二九

料亭　豊福
㉞二八六八

料亭　まえ田
㉞五九一〇

料亭　服部
㉞二〇七六

料亭　松の家
㊲一九二一

料亭　富士の家
㉞二八三〇

料亭　みつや
㉞五一三八

席貸　福六
㉞二一三八

料亭　森本
㉞八〇一七

料亭　わかくさ　㉞〇四八七

すし仕出し　花隈成駒家　㉞三三〇二

軽食　つるの家　㉞八四三〇

そば　松葉　㉞四七七〇

食堂　四宮軒　㉞一三四〇

石川マンション　㉞六三八八

喫茶　繁富　㉞二七九一

喫茶　みどり　㉞一九〇一

旅館　お市　㉞三七三〇

外科　桜井病院　㉞五五〇七

旅館　多聞　㉞六二三七

歯科　島谷医院　㉞一〇二九

寮　神戸ポートヴィラ　㉞〇九五五

耳鼻咽喉科　恒松医院　㉞二六七八

寮　扇港荘　㉞〇〇八〇

小児科　原医院　㉞五九七四

歯科　村井医院　㉞二九六三

美容　花隈美粧院　㉞〇二〇八

くすり化粧品　厚生薬局　㉞二六三五

食料品　安富商店　㉞一一二七

浴場　花隈浴場　㉞八一二六

食料品　福島屋商店　㉞六三九一

理髪　花隈理容館　㉞二五九三

食品パン　花隈屋　㉟二八一八

酒・ビール　芳地商店　㉞三二〇二

製麺　松本製麺所　㉞三〇七九

酒・ビール　徳島商店　㉞八九〇四

凍氷薪炭　徳島商店　㉞八八〇四

和菓子司　播磨屋　㉞八七九〇

呉服　とよざわ　㉞五四九八

京菓子　亀野　㉞〇一〇五

呉服　富太屋　㉞四八一九

呉服　三輪
㉞四六六四

電器具　小林電気店
㉞六八一四

書籍　花隈書房
㉞三四四五

クリーニング　亀屋ランドリー
㉞五〇三五

文房具　小林商店
㉟一四二〇

化粧品製造　竹中化学(株)
㉞六一二五

襖・表具　吉川表具店
㉞三六七八

質　淡路屋質店
㉞二九七七

紅茶卸　川上商店　㉞〇二九五

諸印刷　共栄印刷　㉞二〇八九

美術看板　第一工芸　㉞六二七八

工業用プレス　アイロン　ボイラー　神戸電器工業所　㉞五四四三

写真　青山写真館　㉞〇六〇一

電気設計　佐々木電気商会　㉞二〇一一

青写真　桜商会　㉞六四六一

設計　美研設計　㉟〇七八七

電機器　元町電気(株)　㉞三七〇一

ガソリン　沢田商行　花隈給油所　㉞三九三二

建築　山口工務店　㉞八〇二八

レコード　日本ビクターレコード　神戸営業所　㉞七〇〇一

船具　長谷商会　㉞三三五六

カーペット　カメイ　カーペット　㉞三四三四

ステンレス加工　大平製作所　㉞五七四三

ハイヤー　第一交通　㉞二六四六

住宅　日本電建神戸支店
㉞四五二一

相談　神戸民主商工会
㉟一二九一

貸ビル
貸ガレージ　メディカル興産
㉞三三四四

健康保険　川重保険会館
㉞五一二一

宿泊貸室
賃ガレージ　兵庫県遺族会館
㉞二九五二

雇仲居
紹介　みつわ会
㉞六三三一

地所　花隈会館
㉞八〇六四

葬儀社　公詢社
㉞〇四一四

原材料　福田商店　㉞三一三八

麻雀　花隈クラブ　㉟二三九七

弁護士　種子島事務所　㉞〇六九六

幼稚園　いずみ幼稚園　㉞二五九八

舞踊　花柳楽瞳　大久保雅司　㉞一〇五七

東月　松谷得松　㉞二八五四

石尾マンション　㉞四六八六

マンション花隈　㉞〇九六九

花隈新興会役員名簿

会長　浜野吉男
副会長　吉川一雄
同　小林通男
同（会計）　今井良三
理事　芳地音次
同　中川善文
同　秋谷繁雄
同　福島薫
同　竹中八三郎
同　西川常夫
同　向井三郎

理事　松岡従陽
同　豊沢政一
同　藤本啓蔵
同　青山柳三
同　鎌田重吉
同　磯山朝男
同　小林健佐
同　杉原光
同　新居まさえ
同　鎌田リョウ
同　村井和子

祝　花隈　発刊

花隈会料席組合

役員一同

組合長	阿らん	新居 まさゑ　34二五四五
相談役	千鳥屋	奈良崎健蔵　34三〇九四
同	冨貴楼	池田 はる　34二六五九
理事	らんさ美	中谷 まさゑ　34一一六二
同	花緑	鎌田 静雄　34五〇六七
同	服部	服部 ヒサ　34二〇七六
同	千鳥屋	田中 まさ　34三〇九四
同	長駒	今井 良三　34七二一八
同	成駒家	浜野 吉男　34三三〇二
同	魚善	藤本 啓蔵　34三四二五
同	山茂登	山本 ちづ　34五一五〇
同	松の家	鵜殿 礼栄　37一九二一
同	旧十四番	前田 ふじ子　34五五三六
同	冨士の家	藤原 リョウ　34五五〇四
同	阿さ田	朝田 正一　34八二三六
同	みつや	磯野 光子　34五一三八
同	みつや	大下 芷栄　34五一三八
同	料席組合	福原 博男　34五八四〇

（イロハ順）

花隈検番

芸妓協同組合

理事長	歌栄 清水 ことみ
理事	勝五郎 日野 咲坪
同	若奴 橋本 春子
同	千代栄 橋 千代
監事	音栄 前川 玉緒
同	菊若 和田 房子

祝　花隈　発刊

料理・旅館

花隈

ひらい

電話神戸(34) 2545~7

菊正宗〈鏡びらき〉

結婚式、竣工披露、祝賀会に

菊正宗〈鏡びらき〉が祝宴を盛りあげます
会社・団体・グループなどパーティに最適です

菊正宗酒造株式会社

祝　花隈　発刊

花くま

長駒

神戸市生田区花隈町90番地
電話神戸(078)34-7218

青山写真館

生田区花隈町91
阪急線花隈駅東口上ル
花隈中央本通り西側
TEL (078) 34—0601

祝　花隈　発刊

階上茶寮
京菓子
二つ茶屋
神戸元町一丁目
電話078(33)0755～7

使って便利な
ばらの勧銀
日本勧業銀行山手支店
生田区下山手通5丁目17
TEL 078－35－2221(代)

祝　花隈　発刊

洋菓子
二つ茶屋
神戸元町一丁目
電話078、33、0755～7

写真のことなら．ぜひ
☆カメラ・写真材料全般
☆出張撮影・証明写真
☆カメラ・プリント・DPE
☆カメラ10回払い
☆カメラ修理・下取交換

写真用品・卸・小売
三晃カメラ商会

本　店	生田区阪急花隈駅西口前	34—6070
元町店	生田区阪神西元町駅東口前	34—9698
鈴蘭台店	兵庫区神鉄鈴蘭台駅前	591—5113
多聞台店	垂水区多聞台ショッピングセンター	871—8565

祝　花隈　発刊

世界中のビールを飲んだ人も
はじめてビールを飲む人も
キリンのうまさはわかります

うまさが冴える キリンビール
品質本位

染と織
やぎわ
神戸花隈・電(34) 5498

祝　花　隈　発刊

御祝に御進物に最適の漆器を……

浪花屋漆器店

元町4丁目山側
TEL㉞6367

甘味豊かに家庭円満
納まる御代を喜びつ
豆で楽しく暮しませ

岡女堂の甘納豆

本　店　神戸・福原口　TEL (55) 5536
三　宮　さんちか・スイーツ・タウン
大　阪　阪急三番街　川の流れる街
　　阪急百貨店　銘菓街

祝「花隈」発刊

あすのくらしをひらく――〈そごう〉

SOGO
SANNOMIYA KOBE

杉原　務

生田区北長狭通6丁目16―1
TEL (078) 34―0497

祝　花　隈　発刊

花隈　成　駒　家

浜野商事株式会社

花隈本店…板前すし部
TEL　34—3302・1797
山手調理所…会席折詰和食全般仕出し
TEL　35—0024・0596

丸善サービスステーション

株式会社　沢田商行花隈給油所

生田区花隈町171
モダン寺東本通り
TEL　34—3932

祝　花　隈　発刊

神戸市立
勤労会館食堂
結婚披露宴・会合
御食事・喫茶
神戸市生田区中山手通六
TEL 34—1264

神戸市立
勤労会館海の家食堂
御宴会・御休憩に
（年中無休）
神戸市須磨区一の谷須磨浦公園
市バス一ノ谷（終点）海の家前
TEL 71—9929

有限会社 藤原商店
鎌田重吉
生田区花隈町90
TEL 34—3165

祝．花隈．発刊

近畿道路工事株式会社
取締役社長 岡田武典
神戸市東灘区御影塚町2丁目11
TEL (078) 82—0216 64—0482

祝　花隈　発刊

きもの

花隈
富太屋 さか本
電話神戸
(34) 4819

安全を守るニッセイ

日本生命
神戸西支社

祝　花　隈　発刊

株式会社 公　詢　社

取締役社長 三葉　実

神戸市生田区下山手通8丁目1

電　話　34—0414（代表）

FUJI FILM

フジカラー

世界のカラー

フジカラープリント HYOGO

フジカラープリントの裏面のこの品質保証マークをお確かめ下さい

神戸市垂水区

フジカラー兵庫現像所

あとがき

新興会の事業として現在迄の花隈の事を少しでも書残して後世に語り伝えて貰おうではないかとの計画が総会の決議により実現して本誌を発刊する事になりました。

せまい花隈只一つの町内の事とて簡単に出来るものと役員八名が編集委員になり着手しましたが、吾が花隈は既に御承知の様に戦国時代の古戦場、神戸開港に一役も二役も買った全国で有名な花街とて史実に基いたり、古文書を探したり、古史に造詣の深い諸先生方の玉稿を頂いたり致しますと意外に資料の沢山あるのに驚いた様な次第です。

本誌一杯にありとあらゆる事をのせようと思いましたが紙数に限りがあり、又町内愛に燃えて花隈のすべてを書きつくそうと思いましたが何分編輯スタッフすべて素人の悲しさ、心に思え共口に出せず、頭に浮んでも筆にのらず、また文にも現わせられなくこの様な貧弱な冊子になって終いました。

それでも古い昔の事や明治・大正の面影もしのばれ、現在の花隈の事も多少判って頂けたものと自負しております。

また私達の子や孫が三〇年、五〇年後にこの冊子を歴史の一こまにして呉れるものとの期待を持っております。

この冊子は会員の皆様におくばりするは勿論、官庁関係・史談会・新聞社・放送局・近隣町内会その他へ数百部配布致しましたので、神戸都心の花隈が町外の方にも市の有識者の方々にも新しく認識して頂けたものと喜んでおります。

冊子発行に当りまして前県知事金井元彦先生の御祝辞・神戸市長宮崎辰雄先生の推薦の言葉を頂き、また別掲諸先生方の玉稿を頂き編輯員一同喜びも一入で御座いました。茲に深く感謝申し上げる次第で御ざいます。

尚御本業多忙にも拘らず御尽力下さいました編輯委員の方々並に本誌発行に当り編輯印刷ありとあらゆる御指導と御配慮を頂きました「月刊センター」誌編輯のほんじすまこさんに対し万腔の敬意を表すると共に、また経費の御協力を賜りましたる町内の皆々様方に心から御礼を申し上げます。

編輯委員長　吉川一雄

（昭46・1・18記）

追記　新興会事務局に本誌を若干残して御座います。御希望の方は御申し出下さい。

（写真右から）
中川善文
吉川一雄
竹中八三郎
小林通男
秋谷繁雄
今井良三

誌「花隈」

編輯委員長
吉川一雄（花隈新興会副会長）

編輯委員
小林通男（花隈新興会副会長）
今井良三（〃　〃）
芳地音次（〃　理事）
中川善文（〃　〃）
秋谷繁雄（〃　〃）
竹中八三郎（〃　〃）
浜野　昇（〃　会員）

町誌「花隈」

昭和四十六年三月十五日発行

発行人　花隈新興会々長
浜野吉男
神戸市生田区花隈町九二番地
電話神戸（078）㉞三三〇二

印刷所　大和出版印刷株式会社

〒650-0013
神戸市中央区花隈町二十三ノ二十一
濱野勲
電話〇七八ノ三七一ノ三一五〇

御挨拶

花隈新興会々長　浜野吉男

戦後、国内各地で一しきり城廓再現ブームが興った事は既に衆知の通りであります。

今から四〇〇年余、昔に遡上って永禄年間――今私達が朝夕起居しているこの処に花隈城があり、僅か数年にして城主荒木一族は大阪石山本願寺攻めのいきさつから主君織田信長の手の者に攻め亡ぼされ、婦女子二五〇名余が共に悲惨な最後を遂げたという一連の悲話は余りにも有名であります。

私如き者が歴史をさかのぼって尋ねる是非は別として、神戸市民の心ある方々に依り「花隈城」再現の説が他都市と同じように一頃論議され、花隈住民の一部にも大いなる関心を呼び起され、或は実現かと胸をときめかせたのでありますが、御覧の通り往時「本丸の跡」と伝えられる個所は一昨四四年三月末日を以って市営モータープールとなり、その夢も泡と消えたのであります。

文中にもありますように外壁こそ城の形態を幾分残されているものの、せめて角ヤグラの一つでもという望みを今もって捨て切れない気持を残しているのは、あに私一人では無いと思います。

城再現の一ばんの障害は「花隈城」を偲ぶ何物もなく、僅かに攻手であった備前の池田方に地割表があるだけという事を伝え聞いております。

然し何とかしても更に資料を集め、いつかは再建したいという気持と、資料皆無の場合の城の再現は半ばあきらめの気持が輻輳しておりますが、せめて現時点においては皆様の心の中に城の姿を築きたいと念願しての現れが一昨年の落城物故者四〇〇年忌大法要であり、今回の誌「花隈」の発刊であります。

吾が花隈はちっぽけな町ではありますが前述の花隈城の事や、神戸開港に一役買った花街の事、現在活躍している自治活動、更に発展を期すべく活動している新興会等の他、町に誇るべき事業が次々と計画され実施に移されております。

こうしたいろいろの花隈の出来事や思い出を綴って郷土誌を作ろうという事になったわけであります。

俗に素人の向う見ずと言われますが、その通りで余り慾ばりすぎて決して自慢の出来るものでない事は百千承知でありますが、せめて御投稿下さった諸先生方の玉稿に助けられ、また、このつたない私達の企てが五〇年・一〇〇年の後に何かの風物を残すよすがにでもなれば望外の喜びであります。

本誌発刊の運びに至りますまで、温いお手をさしのべて下さいました諸先生方各位に、心より感謝の意を表し、御挨拶と致します。

「花隈」目次

題字　兵庫県知事　坂井　時忠

御　挨　拶……花隈新興会々長　浜野　吉男…14
推薦のことば……神戸市長　宮崎　辰雄…16
貴重な存在……前兵庫県知事　金井　元彦…17
厳島神社……楢崎伊津夫…30
花岡山禅定院・福徳寺略縁起……酒井　立順…33
日本キリスト教団神戸教会……児玉浩次郎…34
史　荒木摂津守村重……荒尾　親成…36
夢かなった？新生「花隈城」……40
花隈落城四〇〇年忌……浜野　吉男…43
表　白……46
因縁の深きを今更に……福田　とよ…47
花隈城跡から出土した石塔るい……川辺　賢武…50
史　①　花　隈……酒井　立順…52
②　花隈古今物語
③　昔花隈に小学校あり
花隈花柳界誕生記……荒尾　親成…56
花隈附近市街図……2
花隈町附近見取図……4
花隈風景（カラー）……7
花隈のあるところ……20
躍進中の現在の花隈……21
花隈自治会の活躍……25
新興会管理駐車場……26
神戸の新名所「花隈公園」……28
天主閣之趾記念碑建立……49
花隈で遊んだら……60
日本最初の活動写真……61
座談会「蘇生花隈城の春の色」……62
花隈夜ばなし……84
料亭の移り変り……97
芸　妓……114
神戸市章……121
市民の花「あじさい」……122

「ドン山」懐古……木内　勇…68
花隈の人　長駒姐さん……72
村上華岳画伯……74
金山平三画伯……77
東郷井と長籔水路……森川　しず…78
幼いときの花隈……小林　通男…81
下山手歩道橋……中川　善文…88
花隈未来像……吉川　晴嵐…90
太平洋戦争中の花隈……堀　太三郎…92
村上華岳先生の思い出……豊沢スミエ…95
当時の物価……藤本　啓蔵…96
遠くにありて思う花隈……野川　清子…98
住みよい町です……福島　薫…99
文学雑誌「はなくま」抄……今井やす子…100
☆短歌　☆俳句　☆川柳
戯曲「夕やけ雲」……原作・近藤　頼一…102
花隈に住みたい……吉川　一雄…116
明治初年神戸事件……落合　重信…118
三宮今昔……明治　老人…120
新作「神戸音頭」作詞について……福田　とよ…140
町名物語り……川辺　賢武…142
みなとこうべの観光地……123
1、神戸港　2、都心あちら、こちら
3、ショッピング　4、美術館めぐり
5、神社　6、仏閣　7、須磨・舞子
8、山　9、有馬温泉　10、市内観光バス
神戸市民の歌……134
好きな町　みなと祭の歌　花隈音頭
月の輪おどり　ラメチャンタラ…
なつかしのメロディー……138
神戸市民の歌　神戸行進曲　マダム神戸
花隈名物「盆おどり」……140
町内商業分布……143
花隈新興会々員名簿……144
花隈芸妓名簿……151
花隈のお店プロフィル……152
花隈新興会役員名簿……164
おとがき……177
編輯委員……178

花隈城跡から出土した石塔るい

川辺賢武

現在の花隈町でも元町でも、中世に関する物的資料は何もない。その点花隈城跡から先年発見された石塔類が唯一のものであるから、この機会に書きとめておいて、後の世の参考にしたい。

昭和二十六年十一月のこと、花隈町の花隈城跡で、某料亭の建築中に一ヵ所から沢山の五輪塔その他の残欠が出て来たのでその直後調べたところ、宝篋印塔や五輪塔の基壇部三四、それらの基礎部三、宝篋印塔の塔身一、五輪塔の地輪部三九、一石作りの五輪塔残欠やその他八、合計八十五個であった。

それで気のつくことは、どれも方形のものばかりで球形の五輪塔の水輪・風輪・空輪や三角形をした火輪部や宝篋印塔の笠部がまったくないことである。

発見された同工事現場を見ると、円形の井戸と思われる直径一二一センチ、深さ二四二センチほどの底へ方形の石塔類の一部を敷き詰め、周囲には同じく方形の平らの面を表にして積み上げてあったらしい。井戸でなければ水溜めであろう。それだから球形や三角形の積みにくいものは使用されなかったのである。

ところが今から七、八年前、元町本通りの四丁目から五丁目にかけて、水道工事のために掘り返していた時に方形のものはなく、球形や三角のものばかりが、ごろごろ出たことがあった。それらは花隈から出たものと合わすと恐らくセットになるものがいくつかあったと考えられた。

それで思われることは、今から四百年ほど以前の天文・永禄のころには、現在の元町通りの繁華街は、田園の中の共同墓地であったことがわかる。当時墓を作った人達はおもに花隈方面の部落の人達であったと思われる。

天正八年（一五八〇年）花隈城が落城ののち、その跡を花隈村の農家が田畑として拓き、用水の井戸や水

溜めなどを作った。その頃すでに無縁となっていた基石のうち、使用できるものを持ち運んだに違いない。それは墓の年号よりはるかのちで、江戸時代の中頃であろう。いかに無暴な者でも、まだお参りをしている墓を壊して取り去るはずがないから築城の際に作った井戸とは考えられない。

こう見ると出土したこれらの石塔類は、花隈や元町の変遷を知るうえの資料である。花隈や元町の歴史資料でも、この石塔類の年代より古いものは何もないことから注意さるべきものである。花隈城跡から出たものは現在花隈町の福徳寺の無縁墓に積まれてある。元町から出たものは町内の人達が集まって、ていねいに供養したうえどこかへ移された。

明治三十四年、花隈城跡に兵庫港務部があった頃、時報球の建設のとき、地下から五輪塔の一部を掘り出したことがある。そのとき人達は、これは花隈城で討ち死にした人の墓だと決めてしまったが、こんどの石塔類の年号から見ると、これらは城のできるより以前のものであることがよくわかる。

花隈からの中、五輪塔や一石五輪塔の地輪部類はいずれもだいたい高さ二一センチ、横幅二七センチ、四方の梵字の下一字だけを皆残している。

銘文の判明するものを挙げると次のよう。

為道円禅門 「アン」　逆修 天文四年己未二月十八日	月仙宗円禅定門 「アク」 永禄十年七月廿二日
為宗椿禅門 「アン」　逆修 天文八年己亥	永禄十年 「アク」宗柏禅定門 十月十日
為宗国禅門 「アン」　逆修 天文廿二彼岸日	道吉禅門 「アー」 八月時正
為妙弥禅尼 「アン」　逆修 天文廿二彼岸日	宗　本 「アン」

中央「」内は梵字、「時正」は彼岸の中日のこと、逆修というのは生前にあらかじめ死後の往生菩提のために仏事を修することで預修ともいう。

（神戸市史編集委員）

花隈の人

1 長駒姐さん

―日本最古参現役芸妓―

お元気な長駒姐さん

花柳界の斜陽化（？）と共に若い人で新しく芸妓さんになろうという人が少なくなり、芸妓さんの年齢が高令化している折柄、これまた芳紀（？）まさに八十六才という全国一の超々老妓がこの花隈で今も元気で左褄をとっておられる。

それが花隈の人、長駒さんこと今井きみさんである。

初めて花隈にお目見えしたのが十六才の時というから、ちょうど今から七十年前、日露戦争の始まるよりまだ三、四年前で何しろ昔のお客様の顔ぶれとして伊藤博文、西園寺公望、桂太郎、広瀬中佐（当時大尉）その人々にお酌をしたという歴史的な人である。

今も尚年より二十才も三十才も若く見えそうなかくしゃくなあで姿（？）でお座敷をつとめ、全国最年長の現役芸妓さんとして花隈花柳界の生字引であり、ある意味では花隈の持つ誇りの人である。

略歴をちょっと述べさせて貰うと、

明治十八年十二月　滋賀県近江八幡に生まる

明治三十四年　花柳界に身を投じお酌をつとめる

（当時の置屋・金山）

大正四年　花隈検番が中検・新中検に別れたとき

どちらにも行かねばならない義理の板ばさみで芸妓稼業をやめる

昭和十年　花隈へ復帰、長唄の師匠

昭和十二年　芸妓として再つとめ

昭和二十七年　料亭、長駒を経営、芸妓と兼業、現在に至る

昔から酒斗尚辞せずの酒豪だったとか、今は灯ともし頃にならないと飲まないと決めておられるそうだが、その面影は今でも晩酌約三合（〇・五四立）は欠かさないとか、その上料亭の女将連中と年一～二回の遠出旅行にも進んで参加、絶対に同行の人々の手足まといにならないとのことである。

その元気さにだけでもあやかりたいものである。現在では自分の芸名をそのまま「長駒」という料亭を息子さんに委せて自分はお座敷第一、座敷マナーも立派で孫のような若い芸妓さんに尊敬されている。

長駒さんのことをいろいろ聞いていると話題はつきないが、ご本人から変った遺言を聞いた。これは面白い、流石は長駒さんらしいとご本人のお許しを頂いたので誌面に公表（？）することにした。

「私しゃもう八十六才、ボッボッお迎えがくると思う。私が死んだら抹香くさい線香やお経はやめて、集って頂いた人達に〝かがみ〟をぬいてウントご馳走をして大いに呑み、食べて貰う。そして私の吹き込んであるテープレコーダーの長唄や哥沢、小唄で大いに散財してほしい」と

兎角元気な人である。いつまでも〳〵お元気で花隈名物の一つとして長生きされるよう祈って紹介に代えさせて頂く。

吉川記

花隈からミス神戸（生田区）

浜野美栄子さん

昭和四十四年度のミス神戸に浜野美栄子さんが選出されました。美栄子さんは当時十九才、花隈自治会・花隈新興会々長浜野吉男氏の長女で親和高女卒業後家事の御手伝いをされながらお稽古事・茶・生花・日舞を習っておられ山手婦人会推選でした。

身長162　バスト82　ウエスト58　ヒップ86

趣味は語学（パルモア学院本科卒業）タイプでしとやかなお嬢さん。御両親の薫陶よろしくミス神戸になられてからは県・市・区の諸行事に出席され、よき親善使節としての責務を全うされておられます。吾が花隈の誇りの一つです。

2

村上華岳画伯

ー世界画聖に列する名人ー

幼にしてわが神戸に来住、花隈村庄屋、村上五郎兵衛氏に養われ、大正八年十一月五十二才の若さで亡くなった村上華岳画伯、その人の画業がこの節世界画聖と呼ばれる人々と比肩されてきたことに対しては、神戸人として大きな誇りを感ずるのである。

画伯がそんなに高名になっているのに地元の神戸では案外それが知られていないのはなぜだろう。

華岳画伯は生来病弱で作品も売って喰わねばならない人でなかったので気に入った良心的な作品でないとメッタに世に出さず色紙一枚、扇面一本といえどもゆるがせにしなかったので作品の少ないこと、今ひとつ作品があっても所蔵家が大切がって人の目にふれる処へ出さないこともたしかにその理由であろう。

しかし地元の市や県の権威のある機関で展覧会等を催して華岳芸術の周知を図る必要があるのではなかろうか。微力ではあったが、僕が市立美術館長時代十年の間に三回華岳展を催し、先生の作品の大好評であったのは先生に心服する僕の大きな喜びであった。また最近学友の高田一市君を煩わしてその経営する「コロンビア学院」の一角に「華岳先生宅趾」の石碑を建立、先生の遺徳を偲ぶよすがが出来たことも花隈の史跡として後世に残る嬉しい企てだと自負している。

画伯は明治二十一年七月大阪天満の天神さんの近くで生まれ、本家は武田氏で甲州武田信玄を遠祖にもつ一族といわれている。赤ちゃんのころ、故あって親族に当る神戸花隈村の庄屋村上五郎兵衛さんの家に貰われて来て、小学校を出ると画が好きなままに明治三十四年京都市立美術工芸学校に入り、そこを出ると今度は明治四十二年京都市絵画専門学校（現美大）に進学、卒業制作に描いた大作「二月の頃」（明治四十四年作）が既に人々の目を驚かせた。

三十代で描いた「裸婦」「日高川」、関東震災の際惜しくも焼失してしまった「聖者の死」等が有名であったが、身

△前兵庫県知事金井元彦氏の筆になる記念碑

体を酷く悪くして昭和二年以来死ぬまで花隈の自宅にこもり、痼疾の喘息と闘いながら制作を続けていた。ご自分ではこの制作の態度を「密室の祈り」と云っておられたようだ。

華岳画伯の作品には仏画も多いが山や花も相当にある。そして晩年作には好んで「花隈邸舎」の大きな印を押しておられる。印肉の色調もご自分で調合され大変絵にマッチし、押してある画面の場所も心にくいほど好適の場所で絵を一層引き立てているような気がする。

小隠は山に隠れ、大隠は町に隠れるというが、華岳先生は花隈のお住居が殊のほかお好きであったらしくこの言葉がピッタリである。

花隈の住居から足をのばして描かれた一見平凡に見える再度山や六甲・芦屋の山々、或いは布引の渓谷等、山水の大自然というものを深く深く観察して、その表現は外象を超越して、つまり山の持っている霊気というものを内臓して表現しているので名山以上の名山の絵になっていることが多い。

華岳画伯は金を貰って絵を描いた人ではないので、知人や気持ちの合った人に贈られたそれらの絵に、一世を驚かす名画が多いようである。

現に日支事変のはじまった頃、征途につくべく神戸に来て花隈の村上家に分宿した兵隊さんにその武運長久を心から祈念して描いてやったという不動尊の名作の噂もあるので、もし残っておれば「石野雅兄護持」と書いて残されている石野貞雄氏蔵の名作と共に国宝級のものであろう。

【荒尾親成】

花隈の人 3 金山平三画伯

金山平三画伯の逸話等を掲載しようと思いましたが、画伯の幼年・小学生時代の思い出その他は殆んどわからないとの画伯未亡人らくさん（花隈町129に居住，82才）のお話でしたので画伯の略年譜を掲載させて頂きました。

左は「金山画伯旧宅の地」の記念碑と右はお元気な頃の金山平三画伯

〔略 年 譜〕

明治16年　12月18日元町3丁目244で生まれる
〃　32年　花隈町5番地に移る（現在いさみ北側）
〃　37年　4月立教学院立教中学校卒業
〃　42年　3月東京美術学校西洋画科本科卒業（卒業生代表として答辞をのべる）
〃　44年　秋、花隈町129番地に移る
〃　45年　1月神戸出帆パリへ
大正4年　11月神戸着帰国
〃　5年　10月文部省第10回美術展覧会（文展）初入選2点、内「夏の内海」は特選（現在東京国立近代美術館所蔵）
〃　6年　春、満州旅行
〃　8年　3月東京女子高等師範学校（現在お茶の水女子大学）講師理学士牧田らくさんと結婚
大正8年　9月帝国美術院展覧会（帝展）審査委員となる（昭和8年まで連続委員）
〃　13年　3月～5月中国旅行、蘇州・南京・上海を巡る
昭和10年　7月新帝展に反対する旧帝展無審査の有志と新団体「第二部会」を組織する
〃　11年　聖徳記念絵画館壁画完成式が行なわれ、神戸市奉納の「日清役平壌戦」を制作する
9月～10月朝鮮に旅行、平壌・京城・金剛山を巡る
〃　12年　8月第1回文展審査員委嘱の交渉を受けたが辞退する
〃　16年　10月再度朝鮮へ旅行
〃　18年　4月神戸画廊において金山平三作品鑑賞展
〃　19年　7月帝室技芸員となる
〃　32年　2月日本芸術会員に任命される
〃　34年　3月社団法人日展第二科顧問に委嘱される
昭和34年　5月第4回美術家祭で表彰を受ける
〃　36年　9月～12月ヨーロッパ各地旅行
〃　37年　3月大丸神戸店において金山平三展開催される（風景画100点）
〃　39年　7月15日死去、諡号「盛夏院釈平三」遺志により葬儀は行なわず、叙位叙勲も辞退する

主 な 作 品

「氷すべり」第11回文展無鑑査出品特選
「さびれたる寛城子」「諏訪湖の富士」第12回文展無鑑査
「菊」大正11年4月パリで開かれた日本美術展出品
「秋」「湖畔の村」第8回帝展出品無鑑査
「菊」第9回帝展出品（現在東京国立近代美術館所蔵）
「結氷」第12回帝展無鑑査出品
「風雨の翌日」第14回帝展出品（現東京国立近代美術館所蔵）
「夏の内海」昭和11年6月シドニー国際美術展覧会に出品

個 展 そ の 他

昭和18年4月　神戸画廊
〃　20年7月　名古屋美光社
〃　27年7月　大阪美光社
〃　28年11月　大阪美光社
〃　29年12月　名古屋美光社
〃　30年7月　大阪美光社
〃　31年5月　大阪高島屋
〃　32年5月　大阪美光社
〃　33年1月　美光社東京画廊
〃　35年8月　日本橋高島屋
〃　37年3月　大丸神戸店
〃　9月　日動画廊
〃　38年5月　大丸大阪店

神戸市民の歌（昭和34年制定）

好きな町

一、海からきらめく光
光の中におきあがる町
おきあがる町
ああこの町が好き
この町に住んで
マドロスの　マドロスの
口笛をきく

二、山からにおいくる風
緑にはえてきそい立つ町
きそい立つ町
ああこの町が好き
この町に住んで
峰々を　峰々を
ハイキングする

三、あかねの空に鳴る鐘
ドームのみえる坂のある町
坂のある町
ああこの町が好き
この町に住んで
住む人の　住む人の
明るさを知る

四、世界にこだまする槌
あらたに船を生みつくる町
生みつくる町
この町に住んで
すこやかな　すこやかな
手と腕を見る

みなと祭の歌

〽神戸みなとは街から街へ　ヨイヤサ
港祭の港祭の灯がつづく
港祭の灯がつづく　みなと祭は
ヨイ〳〵〳〵〳〵　火がつづく
〽上る花火もあの行列も　ヨイヤサ
港祭の港祭の花と見る
港祭の花と見る　みなと祭は
ヨイ〳〵〳〵〳〵　花と見る
〽誰もとめぬに出舟が止る　ヨイヤサ
港祭が港祭が止めるやら
港祭が止めるやら　みなと祭が
ヨイ〳〵〳〵〳〵　止めるやら
〽守れ神戸を楠公さまよ　ヨイヤサ
港祭が港祭がつづくよに
港祭がつづくよに　みなと祭が
ヨイ〳〵〳〵〳〵　つづくよに

花隈音頭

二上り
〽ハー神戸よいとこ花隈情緒
知るも知らぬも皆きゃしゃんせ
ともに手をとり夏の夜を
一度踊ろじゃないかいな
ヨイ〳〵〳〵〳〵〳〵　ヨイヤサ
〽ハー神戸よいとこ日本の港
あがるお客の手をひきつれて
ともに行きましょ花隈へ
一夜踊ろじゃないかいな
ヨイ〳〵〳〵〳〵〳〵　ヨイヤサ
〽ハー神戸よいとこ花隈へござれ
いきな音〆の音ききながら
好きなお方と手をひいて
共に踊ろじゃないかいな
ヨイ〳〵〳〵〳〵〳〵　ヨイヤサ
※時季により一番の歌詞の夏の夜は春秋冬とかえてもよい。

月の輪おどり

二上り

〽梅の岡本桜は生田松の良いのが湊川
わけて花隈花すがた
ヨサ〳〵わけて花隈花すがた

〽武庫の川辺の茶吉どの年が十五で
若ざかり
月はまん中　心は月の
ヨサ〳〵月のまん中　心は月の

〽エーめでた〳〵の若松様よ枝も栄えて
葉もしげる
花の須磨寺　若木の桜
残る若葉の一の谷

〽出船入船みなとの錦　西国大名の船じるし
立てて帆柱千本の
ヨサ〳〵立てて帆柱千本の

ラメチャンタラ、ギッチョンチョンの歌

神戸に過ぎたものたんとある
町なかふみ切り邪魔をする
おいしゃさんと、せんべやが多すぎる
居留地に便所がなさすぎる
牛、牛や、牛の肉、なくてもよいのが相生橋で
べらぼうにでっかいのが造船所
（はやし）ラメチャンタラ、ギッチョンチョンノパイノパイノパイ、パリゴットバナナデフライ、フライ、フライ。

（大正十年ごろの流行の歌）

二度といくまい　兵庫の神戸
いたら異人が　べケかます

（風土記）

神戸、神戸と皆いうて行きゃる
神戸ぬくいか　みなはだか

（明治二年ごろ）

神戸よいとこ　みな行てしまう
後へ残るは　わしひとり

親は邪険で　子は洋妾（ラシヤメン）で
弟神戸で　牛殺（ギユウコロ）す

梅は岡本　桜は生田
松のよいのは湊川

ばばじゃばばじゃと　いわんすけれど
こんなばばでも　花が咲く

行こか柳原　もどろか神戸
ここは　思案の湊橋

京の白かい　大阪の茶がい
尼の鳥貝　兵庫のめっそかい

あなた一人を　汽車にと乗せて
わたし一人は　ステーション

神戸ステンショエー　往きしもどりの休み場所
三宮、住吉、西の宮、カンカンカン
カラカンノ神崎や　着けば　大阪　ヤンレ汽車エーア汽車汽車

○山陽鉄道の始まりは　兵庫にて
その名もやさしき　柳原　アレなびく須磨の塩煙
○ゆうべ舞子と添い寝して　夜を明石
けさの別れの恋しさに　アレ大久保を後に見る
○土山越えて加古川の　薬師如来さんを伏し拝み
アレおててあわして阿弥陀駅

神戸市中じゃ　田舎の手水（チヨウズ）
なかに福原　あるわいな
高速名神　車がいそがしい
客はそわ〳〵　気もそぞろ
元町通って　花隈へ御案内

（梅が咲いたかの替歌、四十五年花隈おどりで披露
料亭まえだ女将作詞）

なつかしのメロディー

本誌編輯に当り、町内の古老と言っては失礼ですが明治生まれ、大正生まれの方々からいろいろ話を承りましたが、その内面白いと思ったのが神戸にまつわる歌の数々です。流行語にあやかり「なつかしのメロディー」と題しましたが、果して題に似合うかどうかはわかりません。何分古いこととて文章、歌詞の不備等はお許し願います。

題、不詳

一、相生橋は高いな
　上には人が、下には汽車が
　夜、ひる通る

二、楠公さんはエライな
　日本の人もよその国の人も
　皆みなまいる

三、諏訪山公園よろしいな
　南に海よ、うしろに山が
　夜、ひるはえる

〔註〕この歌は明治四十三、四年ごろ流行ったもので当時神戸の中心であった花隈のすぐ西の相生橋、湊川神社、北の諏訪山を歌ったもので、町内豊沢スミエさんからお聞きしました。

神戸市民の歌（大正末期）

一、平相国が一代の
　豪華に築く経ケ島
　福原京のいにしえも
　和田の泊りは賑わいき
　フルエ〳〵　神戸市民

二、大楠公が往年の
　苦戦の跡はみなと川
　流れの末は変れども
　英霊今もおわします
　フルエ〳〵　神戸市民

みなと祭の歌

〈〈神戸錨山市章がはえる
　だてに招いた船じゃあない
　巻けやウインチ巻け〳〵ジャン〳〵
　みなと繁昌の大行進
　月なら霜月七、八日　歌えや　おどれ

神戸行進曲

一、雨の元町スズラン燈
　ぬれて光ったアスファルト
　若いマドロス　恋あさる　恋あさる

二、トーアロードの宵やみに
　しのぶ南京さんの恋がたり
　金とヒスイの　夜がくる　夜がくる

三、異人屋敷の赤い屋根
　ここは山の手花匂う
　窓にしょんぼり　ペルシャ猫　ペルシャ猫

マダム神戸

一、赤と緑のテープの雨が
　切れて涙の雨となる
　舟は出て行く神戸の港
　海は広重、二日月

二、摩耶はケーブル、六甲はリング
　恋のリュックサック肩にかけ
　つんだスミレを外人墓地に
　あげるサンデー二人連れ

三、何をさわぐぞ福原雀
　ジャズに更けゆく新開地
　昔なつかし青葉の笛が
　むせぶ港の夜の風

なつかしのメロディーではありません。近代の歌謡曲で「銀座・京都・神戸」「神戸で死ねたら」「さよならのいえない街」といろいろ歌われておりますが、ご存知のこととて省略させて頂きます。